

第50回親子まつり記念インタビュー 親子まつりへの想い 「親子が楽しめる1日をつくるために」

昭和50年から約半世紀、「子どもの幸せを考える年」を皮切りに始まった親子まつりは今年で50目を迎えます。大和郡山でも有数の大型イベントが節目の年を迎える今回、市民のみなさんに愛されているイベントを支える運営委員会へ、親子まつりのこれまでと、これからについてインタビューを行いました。



親子まつり運営委員会
委員長 前田 光弘

「小さな子どもがもっと楽しめる企画を」

今回、初めて運営委員長に抜擢された前田さん。「昨年は“金魚旅”がメイン企画で、派手な盛り上がるイベントとなりました。今年は、未就園児など小さな子どもがもっと楽しめる企画をしたいと思っていました。」と第50回親子まつりへの想いを語ってくれました。

前田さんは運営委員長を引き受けた後、最初の会議で「迷路がしたい」と提案。「迷路は2種類。大人も子どもと一緒に楽しめる100坪の巨大迷路、小さな子どもが楽しめる手作り迷路を準備しています」と今回のメイン企画について笑顔で話していました。



毎年、運営委員会でメイン企画を準備しています

親子まつりでは毎年、各種クラフトやミニ動物園、ミニSLなどの定番アトラクションが楽しめるほか、運営委員会が趣向を凝らして実施しているメイン企画があります。今年は、巨大迷路と手作り迷路の2種類が会場内に登場します。

また、昨年実施された「金魚旅」は、金魚伝来300年を記念して、甲府市から大和郡山市へ、12日間で金魚が旅した道歩む企画。親子まつりの日に会場内でゴールをむかえました。



運営委員長のこだわりとメンバーの想いで、企画が実現へ向けて始動

前田さんの想いのこもった企画でしたが、発案当初には1つ大きな壁がありました。

「親子まつり全体の予算を考えたとき、2種類の迷路を準備するのが難しいことが分かって…」

でも、「大人も子どもと一緒に楽しめる」、「小さな子どもが楽しめる」、両方を実現するために2種類の迷路にこだわりたい」と葛藤があったとのこと。

運営委員会のメンバーに相談すると「それなら、片方の迷路は手作りにしよう」となり、自分たちで描いた迷路をベニヤ板で作る、そんな手作り迷路がメイン企画として実現することとなったと前田さんは話しました。



運営委員長の想いが形になるメインテーマ

毎年、運営委員長の「どんな親子まつりにしたいか」という想いをもとにテーマを決定。今年はメイン企画の迷路と第50回開催を掛け合わせてテーマは「Let's 50 (れつつごー) めいろ」に、子どもたちが迷路で遊んでいる様子を表してサブテーマは「こどもたんけんたい」となりました。

過去には「前進～令和(げろ)からのスタート～」(45回)、「響走 Music & Run～輝く明日(みらい)へ～」(48回)といったテーマも。



R7・11月3日(月・祝)開催!!

れつつごー



Let's 50 めいろ
～たのしめ!こどもたんけんたい～

Instagram
を開設しました♪



@OYAKOMATURI_1103



みんなで何かを作り上げたい

「もともと、メンバー達はワイワイするのが好きで、私も含めてみんな、何かを作ってみたいなとはずっと思っていたんですよ」と語る木元さん。「昔は親子まつりのメイン企画として、幻の天守閣や参加者がボイを貼って作る金魚のオブジェの製作、手作りで色んなことをやってきました。最近ではなかなかできていなかった中で、運営委員長からの提案もあり、みんなで“よし、やろう!!”となりました」と嬉しそうに話していました。

木元さんのお話から、メンバーが和気あいあいと、協力して親子まつりを運営している様子が伺えました。



親子まつり運営委員会
会長 木元 善雄



金魚っポイ

「金魚っポイ」は第37回の際に実施。参加者が金魚すくい大会の使用済みボイに願い事などを書いた紙を貼り、それを使って大きな金魚を作り上げていきました。



幻の天守閣

第5回、第30回の際に実施された「幻の天守閣」。2回目に再現された天守閣は、スタッフが図面製作や発泡スチロールの板、約560枚などの材料を準備、高さ約13m、幅約11mの天守閣が出来上がりました。



これまで大切にしてきたこと、これからも大切にしていきたいこと

「『参加者が楽しめるイベントにするために、まずは自分たちが楽しくやらないといけない!』という名誉会長からの教えのもと、準備から当日、片づけまで、みんなで楽しくやっています」と木元さん。

小学1年生～60歳代の人まで、概ね30人の運営委員のほか、まつりの前日や当日には元委員も駆けつけてくれて、徐々に会ったメンバーと思い出話もしながら楽しく運営を行っているとのこと。

最後に、これからの親子まつりについて聞いたところ、前田さんは「元々の想いを継いで、親と子が楽しめるイベントであることは続けていき、加えて、時代に合わせたこともやっていきたいですね」と答えていました。



飯田名誉会長より

春は観光の場としてお城まつりが行われています。秋は青少年教育の場として親子まつりが行われてきました。これまで50回続いてきているのは参加していただくみなさんの協力があってこそです。

参加団体の中で協力している人たちを数えると延べ数で1,000人にもなる大きなイベントとなっています。当市を代表するおまつりとしてこれからも続いてもらいたく思います。

